

# 伊勢志摩区域内の公立・公的等医療機関の役割

## 区域の概要

- 2025年の病床数の必要量と2016年度の病床機能報告を比較すると、病床総数は367床過剰となっている。
- 病床機能別に比較すると、高度急性期機能及び急性期機能で581床過剰である一方、回復期機能については、256床が不足する。
- 2025年に向け、急性期から回復期への病床機能の転換を進めるとともに、全体的なスケールダウンが必要。

## 2016年度病床機能報告（床）

高度急性期	283
急性期	1,041
回復期	245
慢性期	397
休棟・無回答等	88
計	2,054

## 必要病床数と病床機能報告との差

高度：67  
急性：514  
回復：▲256  
慢性：▲46  
計：367

## 2025年必要病床数（床）

高度急性期	216
急性期	527
回復期	501
慢性期	443
	-
計	1,687

## 2025年に向けた公立・公的等医療機関の役割の方向性

地域医療構想の実現に向けては、医療機関の自主的な取組及び医療機関相互の協議によって、医療機能の分化・連携を進めていくこととなりますが、2025年に向けた公立・公的等医療機関の役割の基本的方向性は以下のとおり。

- 伊勢赤十字病院は、高度急性期・急性期医療や政策医療に関する中心的な役割を担う。
- 市立伊勢総合病院は、市民のための病院として急性期・専門医療・ケアの充実を図り、健康増進・予防、医療・ケア、介護・福祉における市の施策を他の関係機関・団体と協働して推進、遂行し地域包括ケアシステム構築・発展（まち・ひと・しごと創生）に寄与する。
- 県立志摩病院は、志摩地域の急性期病院としての役割を引き続き担っていくとともに、回復期機能も併せ持つ地域の中核病院としての役割を担う。また、へき地医療拠点病院としての役割を担う。
- 志摩市立国民健康保険病院は、基幹病院と連携しながら急性期治療を終えた患者を受け入れ、回復期機能と慢性期機能を担う。また、地域包括ケアシステムの構築に取り組む。
- 玉城町国民健康保険玉城病院は、回復期機能を担うとともに、地域包括ケアシステムの中心的役割を担う。
- 町立南伊勢病院は、地域における一次救急体制を維持するとともに、回復期機能の充実に取り組む。また、地域包括ケアシステムの拠点施設としての役割を担う。

※なお、役割の方向性に見直す必要が生じた場合には、改めて地域医療構想調整会議で協議することとします。